

松戸アー・ビカニク



ここにあるコト

DOCUMENT

記録集 2024



松戸アートピクニック2024 ～ここにあるコト～

2024.10.12(土)-10.27(日)

21世紀の森と広場

つどいの広場、みどりの里、千駄堀池とその周辺

(千葉県松戸市千駄堀269)

松戸アートピクニックは、2017年より、松戸市の中央に位置する「21世紀の森と広場」が有する豊かな自然環境を舞台に、現代アートをきっかけに多様な文化的価値を創造する芸術祭として始まりました。広場の豊かな環境とともに、アート作品を楽しむ、新しい自然との関わり方を発見すること、世代や言語を超え、広く交流が生まれるきっかけとなる場の創出と、多様な相互理解を目指しています。2022、23年に引き続き、聖徳大学美術研究室が中心となり、アーティストと共に私たちの周りにある色や形、光、手触り、音、風など、すでに「ここにあるコト」をアートの切り口で視覚化し、体験を通して楽しめる場を作り上げました。

参加アーティスト

大成哲雄＋聖徳大学大成ゼミ

S+N Laboratory (西園政史・榎貴美)

髪の木プロジェクト

すずきらな

能登谷小町

マッド・デラックス

特別参加

みやこ染

松戸市立中学校美術部有志

総合監修 大成哲雄

(聖徳大学 教育学部 児童学科 教授)

主催：松戸アートピクニック実行委員会

共催：松戸市、松戸市教育委員会

後援：聖徳大学、聖徳大学生涯学習研究所

来場者数：16000人



グローバルピクニック 5 ～遠い誰かのために～

大成哲雄＋聖徳大学大成ゼミ

学生や子どもたちが作ったフラッグを武蔵野線に向かって振るワークショップや地域の協力で作った巨大な竹ブランコ、松戸市の航空写真をプリントしたレジャーシート、かざぐるまの花畑など「自然」や「グローバル」を体感し楽しむ場を創出。「グローバル」とは「グローバル」と「ローカル」を同時に捉え、自分の足元と大きな世界を同時に楽しむことである。5回目は昨年同様、卓球台やけん玉、竹とんぼができるエリアも作り、より多世代交流が生まれた。



場所：つどいの広場
素材：竹、布、ターボリン、かざぐるま、洋ラン線、卓球台、けん玉
size：松戸ガリバーシート W750×D1000cm
宇宙ブランコ W400×D400×H1300cm
松戸屋台 W122.5×D75×H180cm
ガリバーピンポン W90×D180.5×H76.5cm



まっくろどうぶつ伝言板

S+N laboratory（西園政史，榎貴美）

「千駄堀池」にまっくろ動物が出現！？何体いるかな？動物以外の形もあるかも！？探してみてね。池の近くに集まったまっくろなどうぶつたち。色々な形のシルエットは、池に溶け込み、そこにいるのか、いないのか。鑑賞者がこの場に触れながら作品と出会うことで、日常と非日常を行き来するツールとなっている。そして、SNSに画像をアップし、ここでの出会いを社会と共有する作品である。

場所：千駄堀池 素材：合板、塗料 size：約 W50×約 H100cm 21 点



スターチャイルド ～子どもの自画像～ 大成哲雄

2012年に「常盤平アートプロジェクト」のために制作した作品。常盤平団地周辺の保育園、幼稚園の園児の自由画帳の中から、自分が遊んで楽しかった様子の絵を借り、子どもの部分だけを切り抜き、子どもの身長に拡大した。常盤平団地では、かつて多くの子どもたちが遊ぶ光景が見られた。当初、星型住宅（スターハウス）周辺に展示する計画があったが、今回、昨年に引き続き公園内に立てることができた。笑顔やポーズから子ども時代の「かけがえない時間」を伝えたいという想いは変わらない。

場所：みどりの里 素材：アクリル板、鉄
size：W60前後×H110cm前後 24点

こびとの家プロジェクト

大成哲雄

木の下に「こびとの家」が発見されました。松戸の「こびと」はどんな生活をしているかな？鑑賞者は家の中をのぞき込んだり、周りを見渡したり、姿の見えない「こびと」をわずかな手がかりを元に想像して楽しむ光景が見られた。今後プロジェクトとして、様々な人が作った「こびとの家」が増えていく構想がある。

場所：みどりの里 素材：プラスチック、木
size：W540×D430×H1720cm



犬と人のための見晴台 大成哲雄

園内に犬と散歩ができるエリアができた。鑑賞者は世界の犬の鳴き声の違いをデザインした見晴台から犬と共に自然の風景を楽しんだ。この作品は世界に目を向ける見晴台にもなっている。

場所：つどいの広場
素材：ターポリン、木、プラスチック
size：W360×D240×H250cm





伝言板東屋

S+N laboratory（西園政史，榎貴美）

伝言板プロジェクトにのんびりアートスポットが登場。素敵な景色を観ながら伝言板キューブにメッセージを残してみよう。キューブを動かして、並べたり積んだりしてみよう。

この作品は、キューブの形になった黒板が複数設置されている。描くことを立体的に考えたり、描いたキューブを移動したりすることで、絵やメッセージが空間的に変容する。黒板とつながり、新たな見え方を再構築する作品である。

場所：千駄堀池あずまや 素材：合板、塗料 size：W30×D30×H30cm立方体複数

動く対話プロジェクト

S+N laboratory（西園政史，榎貴美）

コロコロころがる絵と対話するプロジェクト。広場に置かれた透明な球体に絵を描こう！描いたら、転がして、また描こう！

広場に置かれた透明なバルーンには、設置されたペンを使って自由に何かを描くことができる。バルーンは透明のため、のぞき込むと透けて向こう側がみえる。反対側の絵、描く人、広場、空。また、過去に描かれたと新たに描く絵との出会いがあり、自分の絵、他者の絵との時間の関係性が混在し表現が構築される。そして、バルーンを転がすことで、自然や広場、他者との関係性を築く。この作品は、バルーンを介して何かと対話が始まる仕組みをもっている。

場所：つどいの広場
素材：バルーン、水性ペン
size：φ200cm×5個



髪の木プロジェクト in まつど

髪の木プロジェクト

髪の木プロジェクトは髪形を木々の造形に見立てることで「髪の木」に変身し、自然と一体化する参加型アートプロジェクト。SNSからの公開応募を中心に実施し、松戸市とその周辺地域の参加者を中心に、10月26日、27日の2日間にかけて、21世紀の森と広場の各所で髪の木制作と撮影を行いました。老若男女約19名の幅広い年齢層の方々に参加して頂きました。

場所：みどりの里



Wind Catcher 能登谷小町

風を受け止め、その風に乗って形を変える「Wind Catcher」。季節や天候だけでなく動物や虫、人の動きにも影響を受け、動く空気の流れを可視化した作品。コスモスや草、刈り取られた稲、空など、みどりの里で見られる様々な色が1枚の布に表現されている。空気は動き続け、布は一度もとどまることなく揺れ続ける。

場所：みどりの里 素材：テトロンボンジ生地、単管パイプ size：W900×H300cm



ハッピーティピー

能登谷小町

アメリカの先住民の移動式住居である「ティピー」を自らデザインした布と、21世紀の森と広場にて伐採した竹を組み合わせて展示した。

赤ちゃんから大人まで幅広い世代の人達が、自然とティピーの中に入りそこから見える風景や小さな空間、そこでのコミュニケーションを楽しんだ。

場所：つどいの広場
素材：竹、布、ロープ
size：W160×D160×H200cm 3点



memory tree

髪の木プロジェクト

これまでの髪の木130人のアーカイブ写真を使い、自然の木に吊るした野外インスタレーション作品。髪の木となった人々の記憶を自然のフィールドで活かしメモリーツリーを展示しました。

場所：みどりの里
素材：写真、フォトフレーム



Story of tree

髪の木プロジェクト

2023年の松戸アートピクニックでの記録を展示。4日間で約30名の髪の木制作を行なった昨年のイベントの様様を美しい映像にまとめ、ドキュメントムービーとポートレートを制作。パークセンター内で展示。

場所：パークセンター
size：W420×H300mm 12点
映像：4分53秒

すみか

能登谷小町

この森で伐採された枝や幹は、日が経つにつれ、やがて虫たちの棲家となる。土に根を張っていた木が場所と形を変え、再び森に馴染んでいく姿を表現した。枝の色塗りには、松戸市の中学校美術部の生徒や松戸市民数名も参加し、それぞれがこの森や虫をイメージして色をつけた。会期が進むにつれ、作品には蜘蛛の巣が張ったり小さな虫が棲みついたりする様子も見られ、作品が新たな棲家へと変化していった。

場所：新緑の丘 素材：枝、アクリル絵の具、針金 size：W300×D300×H250cm



しぜんの窓絵

すずきらな

松戸の自然をテーマに、カフェテラスの大きな窓に描きました。

モチーフを探して、21世紀の森と広場を散策。親子がどんぐり拾いをしていて、コレクションを見せてくれました。窓に大きく描いていると、カフェテラスで寛ぐ人々が制作中の絵をさして「こうやって描くんだね」とか「やってみたいね」と話していました。人と自然の営みの中で抽出された作品は、季節の移り変わりと共に消されてゆきます。

場所：カフェテラス 素材：ガラスにキットパス size:約 W15300×H1750cm



特別参加

和紙ぞめで作る、 カラフルフラッグ みやこ染

日本の伝統的な染色技法の一つである「折り染め」の技法を使い、オリジナルフラッグを作るワークショップを行った。参加者は染料ならではの色合いや染み込み方、偶然できた形を楽しんだ。

場所：みどりの里



特別参加

パラレルパラソルワールド～見上げればそこは違う世界～

松戸市立中学校美術部有志

(松戸市立第一中学校、松戸市立第二中学校、松戸市立第六中学校、松戸市立六実中学校、松戸市立新松戸南中学校)

松戸中央公園で行っている「アートパーク」で公開した作品を特別に展示。中学生が廃棄されるビニール傘に絵を描き、新たに作品として生まれ変わらせました。たくさんの傘の下から見上げる世界、2階から見下ろす世界は21世紀の森と広場バージョンとして好評でした。

場所：パークセンター 素材：ビニール傘、絵の具



昭和レトロ♪アルミ弁当箱コレクション

マツド・デラックス

アニメ、特撮から食育に関する物を中心に展示したアルミ弁当箱は約100個。公園を散歩する年配の方々には「懐かしい!」と声をかけられ、遊びに来られていたご家族連れには「可愛い～」と喜ばれました。日本の文化の1つである「アルミ弁当箱」を2日間にわたり皆様にお伝えいたしました。

場所：みどりの里



すずきらな Rana Suzuki

学校の黒板に絵を描く黒板画を多数制作してメディアで話題に。黒板、壁、ウィンドウなどの画面に身近なモチーフを写す。作品たちは保存よりも大きさを優先して描かれ、展示後に消される。ライブパフォーマンス、イベント出展、絵画教室の開催などを通して、絵画を用いた時間藝術を追求している。

- ・2018 武蔵野美術大学造形学部 工芸工業デザイン学科卒業
- ・2018 株式会社LUFUに創業メンバーとして参加、のち独立
- ・2024 RunArts合同会社を設立

主な展覧会

- 2020 「コロナ禍のクリエーション」 NHKプラスクロスSHIBUYA、NHK札幌 北海道
- 2023 「知られざる文具アートの世界」京都高島屋、日本橋高島屋、横浜高島屋、そごう広島店、他
- 2023 「あさひの芸術祭」千葉
- 2024 「FIND YOUR ART PROJECT」 流山おおたかの森S・C、柏高島屋 千葉
- 2024 「松戸アートピクニック」21世紀の森と広場 千葉

著書

- ・「みんなで描こう！黒板アート」2023/誠文堂新光社
- ・「みんなで描こう！黒板アート学校行事編」 2024/誠文堂新光社



マツド・デラックス Matsudo Deluxe

世界でただ一人のアルミ弁当箱コレクターであり「日本アルミ弁当箱協会」の会長。日本全国でアルミ弁当箱の展示、講演、トークショー等を開催している。面白おかしいアルミ弁当箱の図柄解説から、昭和文化和や昭和食育の研究まで幅広く活動している。小、中、高、社会人と根っからの松戸っ子で松戸市の移り変わりも知る、正に「マツド・デラックス」と言う芸名がふさわしい人物である。

- ・1982 松戸市立松戸高等学校卒業

主な展覧会・活動

- 2022 「アートフェスタin有楽町」アルミ弁当箱の展示 東京
- 2023 「おしょうバスTV」テレビ朝日 (アルミ弁当箱の貸し出し、著書「アルミ弁当箱図鑑」の紹介)
- 2024 「集英社オンライン」インタビュー掲載
- 2024 「松戸アートピクニック」21世紀の森と広場 千葉

著書等

- ・「時空探偵 マツ・de・デラックス」原作/2017年
- ・「ガレージ GSO〜外車王と呼ばれた男達」原作/2019年
- ・「アルミ弁当箱図鑑」マツドデラックスコレクション /2022年/(株)ヴァンタス

- 2024 「Connected by Color」sunbeam terrace 埼玉

著書等

- ・「アートパークの実践から〜子どもの表現・保育者養成・地域連携〜」共著/2023年/聖徳大学生涯学習研究所紀要
- ・「新しい児童学への招待」表紙デザイン/2022年/聖徳大学出版会
- ・はじめてのおんどくえほん カ行音①「かえるくんとかたつむりくん」イラスト/2023年/三恵社



髪の本プロジェクト

伊藤なごみ、野村祐介のアートユニットとして活動を開始し、現在は奥田帆南をメンバーに加え活動を継続中。アートと人を繋ぐ参加型プロジェクトとして、2018年より愛知県を中心にイベントを多数開催。とよたデカスプロジェクト2021の企画入選を始め、2023年/2024年には松戸アートピクニックに参加。これまでに約150名の髪の本の輪が生まれています。

野村祐介 Yusuke Nomura

名古屋を拠点にデザインやアートプロデュースを中心に活動しながら、様々な年代の美術講師を経て、2020年には小学生を対象としたデザイン教室を開校。新しい授業開発やデザインワークショップを行なっている。髪の本ではディレクションや撮影・広報を担当。

- ・2002 愛知県立芸術大学 美術学部デザイン専攻卒業 '04年同大学院修了
- ・2020 こども造形スタジオ「ふしぎcreative」開校 Suzuki造形美術研究所講師、三重大学非常勤講師、トライデントデザイン専門学校非常勤講師 グラフィックデザイナー / アートプロデューサー

奥田帆南 Honami Okuda

2021年より「もしもカンパニー」を設立し、見立ての面白さをテーマにプロダクト制作やアート活動を行なっている。2024年から「ふしぎcreative中村大門校」の講師として子供たちにデザイン指導を行っている。今回の髪の本ではスタイリングアーティストとして参加。

- ・2021 名古屋造形大学造形学部造形学科 プロダクトデザインコース卒業
- ・2021 個展「雨ときどきわたし」同時代ギャラリー 京都
- ・2021 ふしぎcreative中村大門校 講師、名古屋造形大学 助手

髪の本プロジェクトの主な展覧会・活動

- 2020 「ふしぎcreative キッズ・親子ワークショップ」 2020年〜愛知
- 2021 「髪の本プロジェクト in とよた」 とよたデカスプロジェクト2021入選企画 愛知
- 2022 「髪の本プロジェクト in かかみがはら」 「髪の本写真展」同時開催 岐阜
- 2023 「民花×ヘアドネーション」民花 岐阜
- 2023 「森の結婚式」招待参加 愛知県民の森 愛知
- 2023 「松戸アートピクニック」21世紀の森と広場 千葉
- 2024 「松戸アートピクニック」21世紀の森と広場 千葉

S+Nではワークショップを中心とした活動をはじめ、プロジェクト、コラボレーション、美術協力等、多岐にわたる活動を行っている。活動の特徴として、人と町、そして社会との関係を持ち、作品づくりをしている。

西園政史 Masashi Nishizono

- ・2009 武蔵野美術大学大学院修了
- ・2013 兵庫教育大学連合学校教育学研究科 博士課程修了 博士号取得
- ・聖徳大学教育学部教育学科准教授

榎貴美 Kimi Sakaki

- ・2012 東京造形大学大学院造形研究科 造形専攻美術研究領域修了
- ・国内外のギャラリーを中心に個展、グループ展など多数開催

S+N laboratoryの主な展覧会

- 2016 「白浜町十九淵消防車庫壁画制作」和歌山
- 2016 「くどやま芸術祭」和歌山
- 2019 「ART369プロジェクト」栃木
- 2021 「紀の国トレイナート2021」和歌山 (14,15,16,17,18年にも出展)
- 2022 「松戸アートピクニック」21世紀の森と広場 千葉 (23,24年にも出品)
- 2023 「中・条ビエンナーレ」群馬 (15,17,19年にも出展)

著書

- 西園政史
- ・「小学校図画工作科教育法」共著/2018年/建帛社
- ・「明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法」共著/2019年/明文書林
- 榎貴美
- ・「KIMISAKAKI twinkle」単著/2019年/月曜社



能登谷小町 Komachi Notoya

海や花、動物などをモチーフに地元青森の原風景を表現している。また、オリジナルキャラクター制作を行い、さまざまな表現方法で展開している。大学卒業後は、展覧会やイベント参加のほか、大学で学んだ幼児教育の知識を活かし、子ども向けのアート教室やワークショップを定期的に開催している。子どもたちがアートを通して自分を自由に表現できる「場」作りに重点を置き、活動している。

- ・2021 聖徳大学児童学部児童学科卒業

主な展覧会

- 2019 「smiley グループ展」smiley coffee 埼玉
- 2021 「第14回 聖徳大学児童学科卒業研究作品展」 聖徳大学 千葉
- 2022 「デザインフェスタVol.55,56」東京
- 2022 「monkey house×Komachi個展」 monkey house 千葉
- 2023 「Monkey 6周年記念ライブイベント」 monkey Sea & Real food 千葉
- 2023 「松戸アートピクニック」21世紀の森と広場 千葉
- 2023 「Color of Peace個展」smiley coffee 埼玉

アーティスト *artist* プロフィール *profile*



大成哲雄 +聖徳大学大成ゼミ

大成哲雄 Tetsuo Onari

地域や教育機関などで様々な人と協力し、アートプロジェクトを展開。特に近年は松戸を中心に活動を行っている。2008年から聖徳大学と地域が協働し松戸中央公園で行っている「アートパーク」は17年続いている。子どもや大学生を交えたプロジェクトは、アートによるコミュニケーションや実体験の重要性を説いている。また、現実と非現実を往還するような表現も多い。様々な人が親しめるアートの表現を実践研究している。

- ・1994 東京藝術大学大学院修了
- ・聖徳大学教育学部児童学科教授

主な展覧会

- 2006 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」新潟 (09,12年にも出展)
- 2010 「松戸アートラインプロジェクト」千葉 (11,12年にも出展)
- 2012 「常盤平アートプロジェクト」常盤平団地 千葉
- 2014 「中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス 2014」内田未来学校 千葉
- 2017 「松戸アートピクニック」21世紀の森と広場 千葉 (21〜24年にも出品)

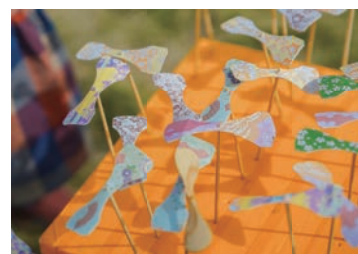
著書等

- ・『「上鰻池名画館」におけるアートプロジェクトの波及性。』/2010年/聖徳大学生涯学習研究所紀要
- ・「実践事例にみる ひと・まちづくり グローカル・コミュニティの時代」共著/2013年/ミネルヴァ書房
- ・「美術の授業のつくりかた」共著/2020年/武蔵野美術大学出版局
- ・文部科学省検定中学校美術教科書「美術 1」、同「美術 2・3上」同「美術 2・3下」共著/2020年/開隆堂出版



S+N laboratory (西園政史,榎貴美)

S+N laboratoryは、美術教育研究者兼美術家である西園政史と、美術家である榎貴美によって2012年に結成。



市民が語る

松戸アートピクニック、 21世紀の森と広場の魅力

話し手 クリエイティブまつど工房

榎本孝芳

上昇気流が起きる時間によく飛ぶらしいです。あとロケーションが豊富なため、コスプレイヤーの方々が集まって、写真を撮って楽しんでます。自然を目当てに訪れる親子はもとより多様な楽しみ方をする人たちが増えているように感じています。ここはそういった様々な人に親しまれる魅力ある公園だと思います。

大成 アートやまちづくりについてお聞かせください。

榎本 私はまちづくりということで色々やってきました。なぜアートに注目するようになったかと言いますと、町を歩くと、町を知ってもらうのには、アーティストの力を借りるのが一番いいんじゃないかと思うようになったからです。アートは非常に時間がかかります。すぐに効果は出ないかもしれないけれど、文化としてだんだん町の中で醸成されるような感じがしています。21世紀の森と広場はアーティストを刺激するインスピレーションを沢山得られる場所のようです。そういった人たちの手を借りるのが一番その町を育てるのいいだろうということで、私は一生懸命アートのことをやってきました。アートピクニックのアーティストはこの場所環境だからこそ、より活きる作品を作っています。家族連れにもワークショップを通してアートや自然と関われるような工夫がなされていると思います。私はこのアートピ

竹ブランコ制作をはじめ、作品設置や運搬など多岐にわたってアートピクニックを支えていただいている榎本孝芳氏にアートやまちづくり、21世紀の森と広場の魅力について語っていただきました。

大成 本日はよろしく申し上げます。
まずは昔の21世紀の森と広場について教えてください。

榎本 私が子どもの頃、ちょうど昭和40年ぐらいになります。この辺りは一面が田んぼで、高木小学校のマラソンコースとして思い出深い場所です。公園になる前は、バーベキュー場があるあたりにフィールドアスレチックやポケバイのサーキットがありました。ポケバイサーキットで練習していた子どもが、世界の宇川徹になりました。千駄堀は50年以上も前からあった村です。この辺りは湧き水が豊富でいつも小川が流れていて、田んぼを潤してきました。逆に小金原の方は江戸時代、幕府の放牧場だったり、700年代後半から2000年代頃、たくさんの方が入植し開墾された場所になります。新しく開墾されたところは、長方形のように結構切りのいい形の田畑になりますが、昔からあった田畑は土地が入り組んでいて、形も様々です。21世紀の森と広場は、その両方に接していて、昔の環境がそのまま残っている場所だと思います。

大成 21世紀の森と広場の自然について教えてください。

榎本 私は以前、松戸の木に着目して「木になる風景」という冊子を青年会議所で作りました。この中で紹介したいくつかの風景がどんどん失われてきていますが、21世紀の森と広場には、斜面林がそのまま残っていて、維持管理の方法も大変素晴らしいと思っています。私が昔見た木とほとんど同じような形で残っていると思います。今、松戸には松戸と言いつつも、松の木がほとんど無くなってしまっています。私もいろいろ調べたところ、常盤平団地の中に50本ぐらい残っていることが分かりました。恐らくこの辺りが一番残っている地域だと思います。綺麗な湧水のおかげで21世紀の森と広場にはホタルが生息しています。毎年ホタルの観賞会を催していて、私も何回か見させていただきました。真つ暗な森の中にホタルが飛んでいる幻想的な風景はとても素晴らしいです。東京のそばでホタルが見られるのは貴重です。是非、色々な方に見ていただきたいと思います。

大成 21世紀の森と広場にはどのような人が集まっていますか？

榎本 この公園には様々なジャンルのファンがいます。例えば紙飛行機を飛ばしている方々がいます。ゴムで飛ばす紙飛行機を作って研究しているようで、午前中の

クニックを一生懸命やっていると、長く継続されて、皆さんの頭の中に、21世紀の森と広場といった、素晴らしい自然とロケーション、そこにあるアートを思い浮かべていただけたら嬉しいですね。市内外から多くの方にどんどん来ていただきたいと思っています。

大成 最後に竹ブランコについてお聞かせください。

榎本 アートピクニックで私は、お手伝いとして竹ブランコを作らせていただいています。過去に江戸川のイベントでも作ったんですが、実際に16m位の竹を持つてくるということになるとなかなか難しいと思います。おそらく松戸でやるとしたらこ

大成 今日はお忙しい中、貴重なお話しありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

聞き手

松戸アートピクニック総合監修
聖徳大学教授

大成哲雄





大成哲雄＋聖徳大学大成ゼミ
S+N laboratory (西園政史, 榎貴美)
髪の木プロジェクト
すずきらな
能登谷小町
マツド・デラックス

みやこ染

松戸市立中学校美術部有志 (松戸市立第一中学校、松戸市立第二中学校、
松戸市立第六中学校、松戸市立六実中学校、松戸市立新松戸南中学校)

伊澤梨瑚、今村晴花、大石彩友実、大倉生愛、大竹莉愛、小島朋佳、
佐佐木唯奈、朱萌菜、徳井星音、野口愛、堀川佳耶子、池田望恵、岡七海、
加藤愛海、加藤優華、金沢ほのか、壁下美雨、小松結奈、齋藤春菜、
鈴木亜海、中岡彩花、矢作亜弥、大森春奈、小屋瑞希、鈴木彩、田中優希、
藤平伶菜、藤本遥奈、峰ちゆり、八木明香音、横田世菜、佐々木あおい、
藤ヶ谷明音、渡邊思美

引地貴子、福島夕貴、中村光絵、佐藤牧子

こぶろうくんと飼い主さん

榎本孝芳、下西立雄(クリエイティブまつど工房)

松戸アートピクニック実行委員会
松戸市 21世紀の森と広場管理事務所

わたなべあてな(キービジュアルデザイン、記録写真、記録集デザイン)
秋田翼(記録写真)
能登谷小町、萩原琴音、大成哲雄(記録写真、映像)

協力／株式会社 33工房
桂屋ファイングッズ株式会社
全国大学造形美術教育教員養成協議会

(敬称略・順不同)

「松戸アートピクニック 2024～ここにあるコト～ 記録集」
発行: 松戸アートピクニック実行委員会
〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀 269
2025年 3月

Instagram



@matsudoap
松戸アートピクニック



@oonarinarinari
聖徳大学
大成ゼミ



@spnlab
S+N
laboratory



@komachi_notoya
能登谷小町



@kamino_ki
髪の木
プロジェクト



@ranas0803
すずきらな



@matsudo_deluxe
マツド・デラックス



HP
みやこ染め

MATSUDO ART PICNIC

まつどアートピクニック

